

ポストドクからみた現状認識

～私の場合～

森岡優志
JSPS特別研究員
JAMSTEC / RIGC

これまでの私

- ・東京大学(4年間)、大学院(5年間)
- ・JSPS特別研究員(DC2)
- ・パリ大学に研究インターン(2ヶ月)



気候変動における海洋混合層の役割を研究

私が行った就職活動

- ・JSPSの国内、海外研究員を応募
- ・海外の研究所(パリ大学他)に相談
- ・国内の大学や研究所の公募待ち

私が参考にした就職情報

- ・海洋学会や気象学会のメーリス
- ・AGUやJpGUなどのNews letter
- ・大学や研究所のホームページ

困ったこと

公募や審査結果の時期が定かでない。
D論とともに就職活動を行う必要あり。

現在の私

- ・JSPS特別研究員(2012年4月から3年間)
- ・海洋研究開発機構に所属
- ・熱帯域と中緯度域の気候変動モードの関係について研究



JSPS特別研究員になって

良かった所

- ・これまで行った研究を展開できる
- ・研究計画を自分で立てられる

悪かった所

- ・身分がない
(例、雇用形態)
- ・社会保障がない
(例、健康診断)

研究は自由に行えるが、大学や研究所のポストと異なる社会的な制約もある。

これからの私

- ・研究は続けたい、海洋学も教えたい
- ・国内、海外問わない
- ・大学の教員や研究職を希望

問題点

- ・希望に見合うポストは限られる
- ・ポストの公募時期に左右される
- ・見つからない場合、社会保障がない

ポストが見つかるまで、ポスドクを支援する仕組みが必要(例、SySPDMet)

ポスドクの私ができること

- ・社会につながる研究を行う
(例、環境、エネルギー)
- ・研究の成果を社会に伝える
(例、海洋学会で企業セミナー)
- ・ポスト作りを社会に訴える
(例、海洋若手研究者の会から提言)

海洋若手会ができること



2010年
気象海洋夏の学校

学生の意識調査、就職情報の提供

まとめ: ポスドクの私からみた現状認識

- ・ポスドクの社会的な身分は不安定
- ・永久職の数は限られている
- ・公募の時期が定かでなく、ポストが見つからない場合、社会保障がない

PDの積極的な意見をお願いします。